

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立昭和中学校	校長氏名	三田 俊士	生徒指導主事氏名	梶山 篤
取組事例名 『子ども読書の日』					
取組のねらい『キーワード：豊かな情操，よりよい学校生活』					
<p>ア 「子ども読書の日」の意義を理解し，読書に親しむ中で，豊かな情操を養うとともに，生涯にわたり，文化や芸術に親しんでいく態度や能力を育てる。</p> <p>イ 生徒会活動を通して，集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画しようとする自主的，実践的な態度を育てる。</p> <p>ウ 読み聞かせで集中力を高めるとともに，本の世界に浸り，他者（本の中の人物）に共感する体験を通して，集団や社会の一員としてよりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。</p>					
取組の具体的内容『キーワード：本の世界に引き込まれて・・・《聴く姿勢・待つ姿勢》』					
<p>1 生徒会執行部を中心に「子ども読書の日」の取組（平成27年4月23日（木）1校時）</p> <p>①「子ども読書の日」の説明（担当教員）</p> <p>②お勧めの本紹介（生徒会執行部）</p> <p>③『千の風になって』読み聞かせ（教員・生徒会執行部）</p> <p>④『千の風になって』独唱（吹奏楽部）</p> <p>2 地域の力を活用した読み聞かせ&ストーリーテリング（平成27年4月24日（金）1～3校時）</p> <p>※内容：呉ストーリーテリング研究会のみなさんによる読み聞かせとストーリーテリング</p> <p>※形態：各クラス1人～2人ずつ，呉ストーリーテリング研究会の方に入ってもらい，話を聞かせてもらう。</p>					
取組の課題・創意工夫『キーワード：継続』					
<p>ア 全体が集まって行う今年度のような取組を毎年継続することで，行事のたびに静かに集合し，集中して読み聞かせ（話）を聞く態度を醸成したい。</p> <p>イ 生徒自らが，より主体的に立案・計画して実施する取組が行えるようにしていく必要がある。</p>					
取組の成果（効果）『キーワード：心に響く・心を耕す』					
<p>ア 今年度初めての取組であったが，昨年度末から計画し，先を見通して取り組んだことで，落ち着いた雰囲気の中で本の世界に入り込ませることができた。</p> <p>イ 母親を突然亡くし，母の死を受け止められずにいた生徒が，読み聞かせを聞いた後，涙があふれて止まらなくなったということもあった。これは，静粛な中で行われた読み聞かせや独唱で心の蓋が開いた瞬間だと考えられる。</p> <p>ウ 取組後，全体集会のたびに，先に体育館に入った生徒から静かに待てたり，時間を守って集合しようとしたりする姿勢が見られるようになった。</p>					
今後の展開『キーワード：生徒による主体的な読み聞かせ活動』					
<p>今年度は大人から読み聞かせをしてもらったが，来年度は自分たちが生徒に，あるいは小学生に対して選書し，練習して読み聞かせを行わせたい。そうすることで，自分たちが「昭和」をリードしていかなくてはならないという使命感が醸成され，自己肯定感が増し，地域の一員としての視野も広がると考える。</p>					

他校へのアドバイス『キーワード：地域公共機関との連携・人材活用』

今回の取組をするに当たり、呉市立図書館の方に読み聞かせボランティアのことを尋ねた。するとニーズにあった団体を紹介してくださり、つないでくださった。地域公共機関は専門的な知識や情報を持っており、教員だけではできないことも、可能になる。それをどのように活用し、取り組むかによって効果的な取組になる。

1日目



生徒会執行部による本の紹介



生徒による独唱『千の風になって』



きちんと整列 ワクワクしながら聴いています



『千の風になって』読み聞かせ



取組終了後、成功を祝って

2日目



食い入るような目・眼・瞳・・・
本の世界に浸りました。



読み聞かせの合間の指遊び—
童心に返って笑顔がこぼれる

